



デュッセルドルフ便り

デュッセルドルフ日本人学校 酒井麻衣子

デュッセルドルフはドイツ16州の中で最も人口が多い NRW 州の州都です。ライン川が街の中心を流れ、便利ながらものどかな街です。そんなデュッセルドルフには、約600社の日本企業が進出しています。5月には「Japan Tag (日本デー)」が街の一大イベントとして催され、コスプレをして楽しむ人々や本格的な日本食を求めて、街が活気に満ち溢れます。夜には日本の打ち上げ花火も楽しむことができ、ドイツにいながら日本を身近に感じることができる街です。

そんな街にあるデュッセルドルフ日本人学校は、今年50周年を迎えました。小・中併設校で、今年度は小学部330人、中学部108人でスタートしました。小学部は各学年2クラスあり、欧州最大の日本人学校です。当然先生方の人数も多く、非常勤の先生方も含めると、教員の数も約50人です。

ドイツを感じる取り組みとして、日本人学校ならではの活動も数多く行っています。日本人学校としては大規模なので、なかなか学校としての取り組みはできないのですが、その分各学年で工夫をして行っています。昨年度は現地の学校に招待されて、一緒にお菓子作りやゲームを楽しんだり、ドイツ人が大切にしているクリスマスマーケットへ行き歌を歌ったり、ドイツ国際平和村へ訪問し、世界の紛争や内戦の恐ろしさを体感したりと、様々な取り組みをしました。

反対に、ドイツの人々に日本の良さをもっと知ってもらおうと、姉妹校のオープンスクールに参加しドイツの子どもたちに習字や折り紙を教えてあげたり、現地校の児童を日本人学校へ招待して日本古来の遊びと一緒に取り組んだりしています。子どもたちはこれらの取り組みを通して「言葉や文化は違えど、同じ子どもなんだ」という「多様性」を認める心が育っているように感じます。日本にいと経験できない、とてもよい機会です。

今年度は、新年度が始まったものの学校を再開できない状態が続いています。今年度日本から派遣される先生方も来独できず、現在は本来の半分の人数で学校運営をしています。一刻も早く「いつも」が戻り、子どもたちの笑顔があふれる学校が戻ってくるといいなと思っています。



現地校との交流



姉妹校との交流



ドイツ国際平和村訪問